

県民等への意見聴取での主な意見

1. 知事とのこども意見表明交流会

日 時：令和 6 年 8 月 19 日（月）15:30～17:00

テーマ：こどもまんなか社会の実現に向けて

参加者：小学生 9 名、中学生 18 名 計 27 名

〈自分が自分を大切にすること〉

- ・1 人 1 人が個性を大切に、周りから否定されない社会をつかっていけばよいと思います。

〈子育てを支援する施設の設置〉

- ・社会の学習で子育て支援について学びました。こどもが遊べて親が子育ての悩みを相談できる施設が富山県にもあればよいと思います。

〈学費の補助〉

- ・行きたい学校があっても、家庭の事情で行けない人がたくさんいます。そんな人のために、学費を補助してもらえればよいと思います。

〈不登校 0 を目指した取組み〉

- ・「不登校 0」とは、学校に来させるということではなく、「学校に来られない」、「行きたくない」という人も学校の勉強が受けられるということです。一人一台端末を利用したオンライン授業を行い学校に行かなくても出席扱いにし、いつ、どこでも学習できるようにします。端末を利用して学習できれば、一斉授業になって、学習できるので、そのペースに合わせた学習を行うことができる、自分に合った学習を受けることができます。学校に来ている来ないや、学習の進度に関わらず、みんなが平等に教育を受けられるので、将来の進路選択の幅が広められると思います。

〈教育・医療・就学の機会を、すべてのこどもや若者に平等に提供される社会の実現〉

- ・社会全体で不平等が軽減され、公平で安定した社会が構成されていき多様性が尊重され、互いの価値感や文化が共存して、より過ごしやすい富山県になっていくと思います。

〈性別、人種、障害にとらわれない教育の実施〉

- ・差別をなくしていくことによって、こどもの偏見を直すことや、多様性の重要度を学ぶことで、様々なアイデアが生まれ、自己表現をしやすくなり、そういうこどもの意見が取り入れやすくなると思います。

〈こどもが意見を持つこと、さらに意見を尊重する社会の実現〉

- ・学校をはじめ、こどもに関するきまりの決定、例えば校則や学校の建物の危険箇所など、学校での決め事は、こどもだけでは決めきれないことが多く、最終決定は先生をはじめ市の職員の人など、大人に渡してしまうことが多いです。なので、大人がこどもの意見を尊重することを意識することにより、こどもが自分で考えて根拠を持って意見をもつことが重要だと思いました。

〈教育の現場において偏見などをなくしていくこと〉

- ・小学生から中学生、高校生、幼児も含めて多様な価値観がある人たちが、平等に富山県をよくするために話し合うことが大切だと思います。

〈大人とこどもが意見を交流する場の設定〉

- ・こどもの意見を吸い上げるだけでなく、大人を交えて、実際にその意見や認識を一致させたり、共通点を見いだしたりすることだと思います。

〈部活動の活動時間の延長〉

- ・活動時間の確保をお願いしたい。また、時間の変更については、生徒にしっかりとその理由を説明したり、こどもの意見も参考にして欲しい。

〈こどもの居場所の充実〉

- ・他県では、図書館に、座り心地が良い椅子や机がありくつろぎながら学べたり、3Dプリンターで、ものづくりができたりするそうです。こどもが過ごせる場所においては、気軽に話しやすい学生サポートスタッフがいて欲しいです。

〈学びの多様化〉

- ・学校で習う以外の専門的な学びの場があるといいです。

〈こどもの意見表明〉

- ・小さいこどもたちも意見をたくさんもっています。学校に行けないこどもや小さいこどもも、気軽に意見を言える場を作って欲しいと思います。

〈自分の考えや存在を受け止めてもらえる社会の実現〉

- ・悩みを抱えている子供が自分から悩みを大人に打ち明けられることが大切だと思います。しかし、周りに悩みを打ち明けられる大人がいなかったり、自分から打ち明けられなかったりして、悩みを抱えている子供をしっかりとサポートする体制を作ることが大切だと思います。

2. 令和6年度「高校生とやま県議会」第1委員会第3回委員会活動

日時：令和6年9月19日(木) 11:15～11:55

参加者：県内高校生8名

概要：富山県子育て支援・少子化対策に関する基本計画の骨子（案）、重点的に取り組む事項を中心に新たな基本計画の中間報告（案）について説明した後、高校生から意見を聴取

<以下学生からの意見>

- ・家事や育児の負担が女性に偏っていることに関して、男女の格差が是正されると良いと思った。
- ・働く上で、男女の格差が是正されることで女性が働きやすくなると思う。
- ・こどもの頃からライフプランを考え、将来に対する知識をつけていくことは大事だと思った。
- ・富山であれば、おわら等代々受け継がれている取組みがあるが、親とこどもが両方楽しめるような機会があるといいと思う。
- ・長期休暇期間中の小学生が、安心して時間を過ごせる場所を整備する取組みがあると良いのではないか。
- ・学校に通えないこどものためのサポートや取組みがもっと広まるとよい。
- ・不登校の学生等が増えている中で、経済的な支援や施設の設備等、いろいろな面でサポートがあるとよい。
- ・子育て支援や人口減少対策について、調べていくと分かってくるが、一般の人にはあまり伝わっていない。発信の仕方が大事だと思った。

3. 声を聴かれにくい子どもへの意見聴取

日 時：令和6年10月～11月

テ ー マ：学校や学校以外の居場所となる場所にどのような思いを抱いているか

回 答 者：フリースクールに通う児童生徒、外国にルーツのある児童生徒・48名

調査方法：アンケート調査

【1 学校や先生に伝えたいこと】

- ・授業や勉強が分かりやすい。
- ・いつも優しく教えてくださり感謝している。
- ・校則ばかり厳しくしないで、もっとモチベーションがあがるようにしてほしい。
- ・どなったり厳しい注意はやめてほしい。
- ・わからないことがあっても、人がいると聞けない。
- ・人と比べないでほしい。
- ・運動会などの行事が苦手な人もいる、人によって得意、不得意があるのに配慮されていない。
- ・やさしくしてほしい。
- ・こどもに寄り添った指導をしてほしい。
- ・日付とか日直で当てる人を決めないでほしい。
- ・授業が嫌で逃げ出したくなる。
- ・学校に行きたくない。
- ・宿題が多い（やる気がなくなる）。
- ・なんでもかんでも禁止にするのをやめてほしい。
- ・(テストの) 番数を出さないでほしい。
- ・楽しい行事をなくしたり、時間を短縮しないでほしい。
- ・シャーペンを使えるようにしてほしい。
- ・(中学校に向けて) 不登校の事を考えてくれるのはありがたいけど、こちらにもトラウマがあるので無理やり会おうとしないしてほしい。

【2 学習のサポートについて】

- ・楽しく勉強できるようになりたい。
- ・中学生でも小学生の勉強をしたり、分からない所を教えてくれる人がいてほしい。
- ・わかりやすくおしえてほしい。
- ・放課後、分からないところを先生と勉強する時間がほしい。
- ・個別に教えてほしい。
- ・高校において、留学生の状況に応じた優遇制度があってほしい。
- ・絶対に人と会わない、話さないタブレット学習を作してほしい。
- ・いまのサポートで助かっている。
- ・学習に興味が無い。休みたい。好きなことだけやりたい。
- ・学費無料などの枠を広げてほしい。
- ・進学のためのサポートをしてほしい。
- ・安価で質の良い個人指導塾があるとよい。

【3 学習環境について】

- ・先生に気軽に質問できるようにしてほしい。
- ・ふざけている人を先生がしっかり注意して、みんなが勉強しやすい環境になるといい。
- ・教室がうるさくて集中できない。
- ・学校が楽しくなればいい。
- ・みんなで同じペースでやるのではなく、一人一人にあったペースで学習ができるようにしてほしい。
- ・家や学校以外にも無料で使えて、気軽に入ることができる学習場所がほしい。
- ・外で元気に遊びたい。
- ・ずっとイスに座らず、体を動かしながらの学習があればよい。
- ・動物がいるといい。
- ・母国語教育を受けたい。
- ・母国の小説（母国語）を読みたい。
- ・外国人のための日本語のテキストがもっとあればいい。

【4 居場所に求めること】

- ・公園や図書室が1つにまとまった場所がほしい。
- ・落ち着いて学習できる場所がほしい。
- ・寝るところがほしい。
- ・パルクールみたいなアスレチック場、バスケコート、スポーツができる場所がほしい。
- ・公営の遊べる場所がほしい。ホッと一息つけてボーっとできる無料の場所がほしい。
- ・ソファやクッションがたくさんある図書館や本がたくさんある学習スペースがほしい。
- ・フリースクールに遊具がほしい。
- ・無になれたり、泣ける場所がほしい。
- ・思いっきり体が動かせる場所がほしい。
- ・母国に触れ合える場所、母国の人と触れあえる居場所がほしい。

【5 遊び場に関すること】

- ・公園などは、高齢者への配慮が求められるけど、全力で走れないなど、特に小さい子は楽しめない。
- ・富山県はあそぶ所が少ないのでもっと増やしてほしい。
- ・小さいこども向け以外の遊具を増やしてほしい。
- ・ボール遊びが出来る場所を増やしてほしい。
- ・お金をかけずに遊びたい。

4. こども県政モニターからの意見聴取

日 時：令和6年10月～11月

テ ー マ：学校や学校以外の居場所となる場所にどのような思いを抱いているか

回 答 者：富山県ホームページから県政モニターに登録した小学生から高校生・35名

調査方法：アンケート調査

【1 学校や先生に伝えたいこと】

- ・もっと柔らかく優しく友達のように接してほしい。
- ・どのこどもも同じように接してほしい。
- ・友達の輪を広げるために、たくさんの人と話す機会を作ってほしい。
- ・私たちが挨拶をしても返してくれない先生がいる。挨拶を返してくれないと悲しい気持ちになるので、挨拶を返してほしい。
- ・自分の探究や自主学習の時間がほしい。
- ・校外学習をもっとしたい。
- ・学校に子どもの権利条約の紙を掲示してほしい。
- ・冬期は朝の凍結がとても怖いので登校時間を1時間遅らせてほしい。季節や気温、天気によって登校時間、下校時間を変えてほしい。
- ・外見についての規則が厳しすぎる。

【2 学習のサポートについて】

- ・先生にわかりやすく教えてほしい。
- ・塾に行っていないので、休日も学校に行って、自習室のように使いたい。
- ・静かに勉強したい。
- ・授業が簡単すぎる。
- ・学校の一部の教科が関心を持ちにくく生徒が意欲的に授業に取り組めないで、より生徒の気持ちに合った授業をしてほしい。自由進度学習の時間を増やしてほしい。一人一人のペースで勉強ができるようになってほしいし、もっと体験学習ができるようになってほしい。
- ・漢字ドリルと計算ドリルが配布されているから、通信で遅かったりバグが出たりするパソコンで宿題を出されるより、ドリルで宿題を出して欲しい。
- ・パソコンに教科書を全部まとめたりしてくださると、鞆が軽くなって助かる。

【3 学習環境について】

- ・私の高校は実習がメインなので楽しめている。
- ・1人1人のペースを理解し、それぞれの特性にあった個別指導をしてほしい。習熟度別学習を取り入れてほしい。疑問がある時に、直ぐに聞くことができる、時間の余裕と人の余裕があるとよい。
- ・教科書以外の応用問題に対するアドバイスができる人や、時間を設けてほしい。わからないところを教えてほしい。
- ・学習専用端末の活用を促進してほしい。オンラインで授業を見直したり、わからないところを聞けたりできるといい。
- ・料理の勉強ができる仕組みがほしい。

- ・英検のサポートがほしい。

【4 居場所に求めること】

- ・休日、寂しくなった時に、行けば誰か同い年くらいの人がいる場所があるといい。
- ・学生が運営するカフェがあったらいい。
- ・手軽な距離感で子どもたちが気軽に集まれるところがたくさん増えてほしい。子どもが無償で気軽に遊びに行けて、話を否定せずに聴いてくれて、好きな分野に思いっきり浸れる空間がほしい。
- ・友達とすぐに集まれて気軽に話せる場所がほしい。
- ・子どもだけが入れる交流の場がほしい。
- ・思いっきり遊べる公園がほしい。
- ・無料で本がたくさん読め、友達とインターネットで遊べる場所がほしい。
- ・フリースペースのような自由に時間を過ごせる場所がほしい。

【5 遊び場に関すること】

- ・公園で思い切り遊びたい。
- ・公園にもっと遊具がほしい。
- ・公園の数を増やしてほしい。
- ・公園以外の遊び場がほしい。
- ・悪天候の時に体を思いっきり動かせる無料の場所がほしい。

【3 富山に戻るとしたら？戻った時に不安なこと】

- ・将来的に出産することがあるとすれば、富山に帰って産みたい。一人で子育てをするのは絶対に無理。家族のいる場所で産みたい。
- ・結婚や子どもが生まれる等ライフスタイルがガラリと変わるタイミング。
- ・年収が下がるのが怖い。女性が富山県で働くことになった時に、どのような待遇を受けるのか想像がつかない。
- ・先生や看護師等資格がある方のイメージはつくが、普通に会社で働いている女性との接点がなく、どのように働いているのか、イメージがわからない。
- ・富山に帰った時に、親戚もそうだし、繋がり・コミュニティが小さすぎてやることが見られているし、見えてしまうことが窮屈に感じ、しんどくなるかもしれない。
- ・高校時代、地元にいる時に辛くても絶え凌ぐという感じが自分にとっては窮屈だった。
- ・東京の人に即座に会えなくなる。急に直接会うことが重要な仕事の案件があると対応できない。
- ・交通利便性。他の県への移動がしやすい。電車の本数が増えると良い。
- ・実家への安心感で墮落しそう。
- ・都会は人が多く時間の流れが早い。富山は緩やかに時間が流れている。富山で仕事をするようになった時に、「まあいっか」「明日やろう」となりそう。
- ・東京の人は遅くまで活動するが、富山の人は結構早かったりして、感覚のずれを感じる。
- ・学校の選択肢が狭い。東京は例えば音楽好きな子は音楽に特化した高校とか、美術好きな子は美術に特化した高校を選べるが、富山は学校と言えば「頭の良さ」みたいな軸しかない。

【4 富山に住む人を増やす方法】

- ・富山から出ることは別に悪いことではない。それだけ向上心がある方が多いとも考えられる。流出を止めるのではなく、富山に戻って来たくなるような施策の方が良い。20代の女性の流出が多いことも富山に戻ってきてくれれば悪いことではない。
- ・働きやすい環境、子育てしやすい環境が整っていたら、富山に帰ってきたいと思うし、富山で子育てしたいと必ずなると思う。東京は人が多く、子育ては富山の方が良い。知るきっかけがあれば、子育て時期に富山に戻ることや、移住することについて前向きに考えることができるのではないか。
- ・富山から出た人は富山とのつながりが切れてしまっているため、県外に出た人に確実に連絡が取れる方法があると良い。受け身でいても富山の情報が届く仕組みがあると良い。
- ・住む人にこだわらない方が良い。日本全体が人口減少しているのだから、人を求めても仕方がない。住むことにこだわらず、関係人口を増やしていくという方向で良いのではないか。
- ・富山に帰省する際に県外の友達を連れてきて案内したり、友達の誕生日プレゼントに富山のものをあげたりする等、県民一人一人がPRすれば、富山をもっと知ってもらえるのではないか。
- ・東京で富山のイベントを行う機会が少ない。イベントを定期的に行えば富山に興味を持つ人が増えるのではないか。
- ・海外の人が日本に住むことが増えてきている。海外向けの観光PRにもっと力を入れてはどうか。

6. とやまホンネトーク（大学生の回）

日 時：令和6年11月19日（火）19時～21時

テーマ：将来の仕事・理想の働き方、恋愛・結婚

参加者：富山県在住の大学生・大学院生 17名

【1 最も気になるライフイベント】

<結婚・妊娠>

- ・富山県で30代は「行き遅れ」と言われそう。
- ・学生生活を卒業してから（初婚の婚姻件数が多い20代後半までの）4年間で相手が見つかるのか不安。

<転職>

- ・最近「転職して当たり前」という印象。
- ・生きているうちに、色々なことをしたい。
- ・ワークライフバランスの見直しを30歳くらいでしたい。
- ・まずは就職をして貯金し、その後は脱サラして起業するなどしたい。余生を楽しむための準備をしたい。

<引越し>

- ・大学を卒業したら地元（県外）に戻ろうと考えている。都会と地方暮らしのどちらが良いのかよくわからないので、違いを知りたい。

【2 将来の仕事・理想の働き方】

<就職先に重視する条件>

- ・休日がしっかり取れて残業が少ないホワイト企業を希望。
- ・お金とやりがいと大事。休みも欲しいが、まずは（20代のうちは）お金とやりがいと得られるところで働きたい。（多少厳しくてもキャリアを積みたい）
- ・自分のことに使える時間を必ず確保したい。
- ・様々な職員に理解がある会社が良い（子育て、生理休暇 など）
- ・収入と持続性がある企業が良い。

<県内企業のイメージ>

- ・名前はあまり知られていないが、意外とすごいことをやっている企業が多い。
- ・もっぱら第二次産業のイメージ。ものづくり。メーカーの部品などを作っている。
- ・富山県はやはり薬が有名。
- ・高校時代、富山県内にどんな企業があるのか良くわかっていなかった。公務員くらいしかイメージなかった。
- ・就職時、富山県内には選択肢が少ないと感じた。IT系は特に選択肢が少ない。東京や都市圏と比べると仕事の規模感も小さいため、結果的に東京に出ようとする。

【3 恋愛・結婚】

<恋愛・結婚についてどう思うか>

- ・恋愛も結婚も「カロリーが高い」（面倒）
- ・コミュニティ（サークル、会社など）が近すぎる恋愛は嫌。
- ・結婚にこだわりがない。寂しくなければ良いので、パートナーがいれば十分。こどもも欲しいが「絶対」ではない。
- ・「結婚」は人生の方向性が決まってからでも遅くないと思っている。
- ・就職したら出会いが少なくなりそう。
- ・仕事を始めたら恋愛や結婚どころじゃなくなると思う。
- ・マッチングアプリには抵抗感がある。最終手段であり、「両親がマッチングアプリで出会った」と聞いたらこどもががっかりしそう。
- ・結婚後にお金がかかるイベントが多そうで不安。
- ・結婚はしたいが、良いイメージを持ってない人が多い。
- ・周囲の大人が浮気、不倫、離婚等について話していて、結婚のイメージが良くない。
- ・こどもを産むのが怖い。欲しいけど痛そう。
- ・共働きになるとこどもを作るのが難しそう。

<未婚率の上昇について>

- ・祖父母の時代はお見合いなどもあったし出会う場所が用意されていた。未婚率が上がっているのは仕方がないと思う。
- ・未婚率が上がっていることが悪いことだと思わない。「自立して生きていける」「生き方の多様性」の証なのではないか。
- ・富山だけの問題ではなく、東京の人も「バリバリ仕事したい人」は結婚していない。
- ・東京など県外に就職する人が多く、遠距離恋愛を敬遠してか、学生時代の付き合いが消極的になる。
- ・SNSの普及に伴い、Youtubeのカップルチャンネルなど、一般人のキラキラとした恋愛を見ることができる機会が増えた。恋愛や結婚の理想が上がっているのではないか。
- ・今の時代は「彼氏より推し活」という人が多いと思う。友人が推しに貢ぎたいという理由で彼氏と別れた。

<富山県の結婚支援施策等について>

- ・富山県がどんな結婚支援をしているのか良く知らない。
- ・婚活支援のイベントに行くのは恥ずかしい。
- ・自然に出会いたいので、「恋愛」「マッチング」などの名前を出さずに自然に出会える（男女がペアになれる）イベントがあると良い。
- ・東京では、福利厚生の一環で企業が運営しているマッチングアプリがある。一般的なものは胡散臭いイメージがあるけど企業がやってくれていると安心感がある。

7. とやまホンネトーク（子育ての回）

日 時：令和6年11月20日（水）10時～12時

テーマ：こどもまんなか社会の実現

参加者：富山県在住で子育て中の父母 9名

【1 子育てをされていて楽しいと感じる瞬間】

- ・家族みんなで大笑いをしながら食卓を囲んでいる時。
- ・我が子の成長を見られる時。
- ・こどもを通して追体験できるのが楽しい。等

【2 子育てで大変な（困っている）こと等】

<保育>

- ・特定の保育所の一時保育を断られた。制度があっても利用できないのなら意味がない。
- ・保育園を利用する際に、「祖父母が迎えに来ること」が前提となっているのはおかしい。核家族が増える中、家族の負担が大きい。祖父母と同居していたり、近くに住んでいたとしても、祖父母にサポートをお願いしていない家庭は多いと思う。また、働いている祖父母も多いのであてにしないで欲しい。
- ・保育料を払っているのに、仕事が休みの日に保育園に通わせると園長からチクリと言われる。（親は「自分時間」を少しでも取ってはいけないのかと悲しい気持ちになる。）
- ・男性が育児休業を取得することには無理がある。女性は産休・育休から復帰してもキャリアが保証されているが、男性の場合、育休から復帰してもキャリアが閉ざされることが多い。（公務員は建前もあり取ることが可能だが、一般企業では無理。）
- ・数日間の休みを取るのには育休ではない。それを育児休業取得率にカウントしないで欲しい。
- ・「3人目だからもう大丈夫だよね～」という支援センターの方の言葉が苦しかった。育児にはいつだって違った悩みがある。

<教育>

- ・「富山県教育委員会」の「自主学習」の負担が大きい。自主学習ではなく、実質的に宿題が増えているだけであり、親の負担が増えている。
- ・学校の宿題が多い。こどもの遊ぶ時間がなくて可哀想。
- ・富山県だけではなく日本全体の話だが、「内申点制度」が無意味だと感じる。教師の主観が入っていると感じる。
- ・フリースクールに通っていることに対して「家庭に問題がある」と学校側に言われることが苦しい。学校の先生の価値観がアップデートされていない。
- ・奨学金を返すことの大変さを理解せずに借りている。奨学金のメリット・デメリットを理解して借りてほしい。

<その他>

- ・富山県のように、車社会の地域では、習い事の送迎がすごく大変。乗り合いタクシーのよ

うな便利なサポートがあると嬉しい。親戚総出で送迎のシフトを組んでも回らない。こどもが複数いると送迎が厳しく、習い事を諦めなくてはいけない。

【3. 富山県の子育て支援策について】

<保育>

- ・保育園の単発利用を気軽にできるようにしてほしい。
- ・障害がある子などを専門の方に見てもらえる環境を整えて欲しい。そのためにも医療従事者や保育士などの給料を上げて欲しい。
- ・支援センター関連のイベント告知はチラシだけではなく、SNSをもっと活用して欲しい。
- ・産後ケアの充実。期間限定でも良いので、1日に数時間でも外部の人が来てくれるサポートがあると嬉しい。
- ・「こどもまんなか」社会の実現が掲げられているが、社会でこどもを見守るためには子育て当事者以外の人にもメリットがあるということを伝える必要があるのではないか。不平等感を解消したい。
- ・産後のサポート支援として、親はどうしてもこどもを優先し自分のことを後回しにしてしまうので、親のためだけに使える応援チケット（例：授乳サポート、家事を楽にする家電購入券など）等の支援があると良いのではないかと。東京では実際に家電購入チケットがあり便利だという話を聞いた。

<教育>

- ・奨学金の返還を助成する制度についてももっと宣伝してほしいし、対象を拡充してほしい。転入・定着の促進のためにも必要。

<その他>

- ・ママ・パパが気軽に話せる場が欲しい。特に父親が話せる場があると良い。母親の意見ばかり取り上げられる傾向にあるが、父親側から全然違った意見が出てくる場合がある。そのギャップを埋めていく必要があると思う。
- ・コミュニティナースのような、地域の困りごとをさりげなく拾い上げる存在やコミュニティがあると嬉しい。
- ・公園があっても土日しか活用されていないので、平日にこども達だけでも安心して遊べる環境を整えて欲しい。例えば、大学生や高齢者による見守りチームを結成する等、社会全体で子育てをする仕組みができれば素敵。

8. とやまホンネトーク（若手社会人の回）

日 時：令和6年11月20日（水）19時～21時

テーマ：社会人生活・理想の働き方、恋愛・結婚

参加者：富山県在住の若手社会人 14名

【1 最も気になるライフイベント】

<結婚・妊娠>

- ・独身なので少子化の話をされる度に暗い気持ちになる。
- ・海外赴任もしたいし、今は仕事を頑張りたいので、結婚は考えていない。
- ・結婚したいが、人生や環境がガラリと変わるので不安。
- ・来年結婚予定だが、いつ頃妊娠すれば良いのか悩む。世の中が明るくないので不安。

<マイホーム>

- ・建てるならローンの問題もあるので、早めに建てたい。
- ・富山県民は新築を建てる傾向にあるが、「負の遺産」とも言われているし考えていない。

【2 社会人生活・理想の働き方】

<社会人生活で働きづらい、生きづらいと感じること>

- ・教員は残業が多すぎるのに残業代が出ない。本来はこどもと向き合うことが仕事なのに親御さんの対応や事務作業が多く、こどもと向き合う時間がない。人材不足も問題。
- ・人事業務を担当しているが、人材不足で新卒採用が厳しい。シングルマザーの従業員が多いと感じるので、企業でもひとり親の支援も手厚くしていくべきだと考えている。
- ・自営業はいつでも連絡がかかってくるので、オンとオフのメリハリがつかず苦しい。
- ・新しい繋がりが欲しいのに、富山県内でどのように人脈を広げれば良いか分からない。
- ・同世代が活躍しているのを見ると「自分は何もできていないな」と苦しく感じる。
- ・両親や周りの人が、給料の高い低いで仕事や自分の価値を決めてくるので、お金は大事だけどお金が全てなの？と苦しくなる。
- ・「娯楽」が少ない。大型ショッピングセンターしか行くところがない。
- ・22時以降の移動手段が少なすぎて困る。

<現在の職場に求めること>

- ・職場に年齢が近い人がいない（同期が少ない）。話し相手が欲しい。
- ・こどもがいる人は、こどもの学校行事などで有給休暇がどんどんなくなっていくので特別休暇などがあると良い。
- ・男女比に偏りがある職場で働いている同僚が男性側も女性側もお互いに「出会いがない」と言っている。つなぎ役になれるような人が企業に潜んでいるとマッチング率が上がる。
- ・独身の社員に仕事が偏っている。子育てしている人達には、知らない間に負担が来ていることに気づいて欲しい。
- ・給料のアップ、賞与が欲しい。
- ・通勤時間を減らしたいので、在宅ワークと半々くらいで働きたい。

【3 恋愛・結婚】

<恋愛・結婚についてどう思うか>

- ・恋愛は自由化が進んでおり選択肢が多い。SNSの普及に伴い、恋愛の理想が高くなっているので、現実と理想のギャップを埋められる手立てがあると良い。
- ・結婚にはネガティブなイメージが強い。家族のために自分を犠牲にするのは嫌。
- ・一生一緒にいることになる考えると、結婚は30代でも良い。
- ・急いで結婚して嫌な思いするくらいなら、晩婚になってもちゃんと考えて結婚したい。
- ・選択的シングルマザーが安心できる環境をサポートする等体制を整える方向に施策の舵を切るのも良いのではないか。

<未婚率の上昇について>

- ・未婚率の上昇は、女性の働き方の変化を考えると当たり前だと感じる。
- ・未婚率の上昇は、一人で生きていける環境が整っているという証（男女問わず自立できている証拠）だと思うので、決して悪いことではない。その人が選択していることだから別に良い。
- ・20代後半になると周りは結婚ラッシュとなるので、「未婚率が上がっている」という実感があまりない。
- ・本当に結婚がしたい人は、できなかつたらアプリの活用等婚活をしているはず。未婚率が高いということは「結婚しなくても大丈夫」「結婚を良いと思っていない」ということだと思う。
- ・男性は「結婚はいつでも良い」と思っていることに尽きると思う。結婚に関してそんなに深く考えていない。結婚についての不安や思いは女性の方が強いと思う。

<富山県の結婚支援策等について>

- ・企業勤めで育児休業を取得するのは無理だと思う。
- ・富山県が出会いを支援する必要はない。
- ・男女が1列に並んで行う婚活イベントは良くない。
- ・プレコンセプションケア教育の前に、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ教育からすべきだと思う。
- ・友達も欲しいし、出会いの場は欲しいが、「恋愛」だけのイベントには良いイメージがない。ワインの飲み比べや趣味と絡んだイベントの方が良い。
- ・「マッチング」「婚活」などのイベントには行きたくない。「友達を作ろう！」とか「友達づくり」などのネーミングが良いのでは。自然に出会える企画が良い。
- ・男女平等と言いながら、マッチングアプリや婚活イベントの参加料金は男性の方が高い。収入の差がほとんどないのに、主催する人も「男性の方が給与が高いのでは」という偏見があるのでは。
- ・結婚をして子どもを産んで、家を建てたいと思っているが、富山県の婚活イベント等に来る人に対しては「大丈夫なのか？」と感じてしまう。アプリを利用するのも怖い。